

(答え)

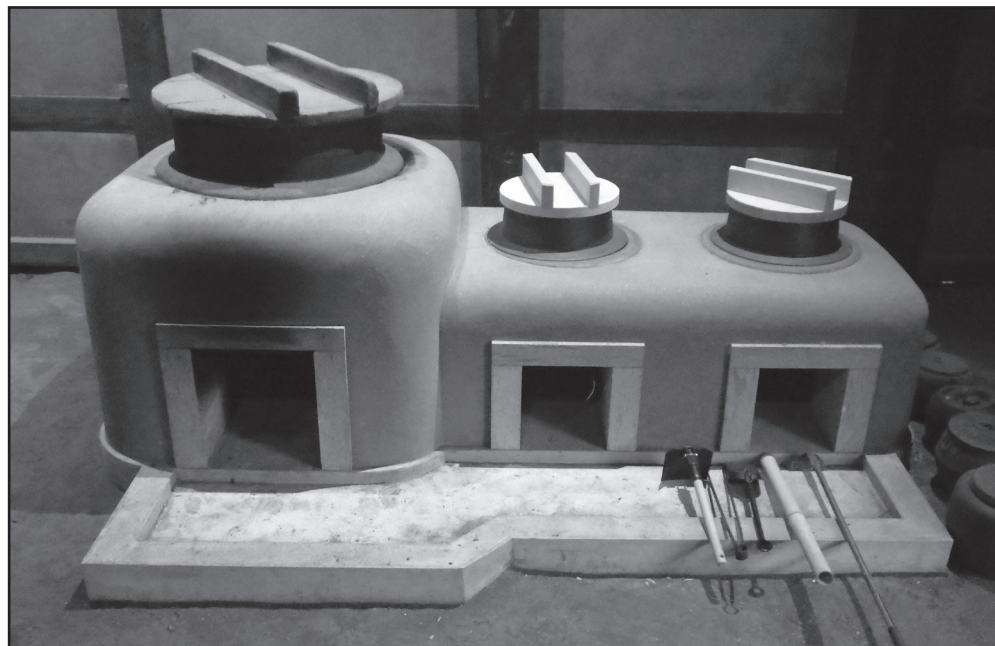
世田谷代官屋敷  
世田谷区立郷土資料館  
学習ノート



年 組 (名前)

---

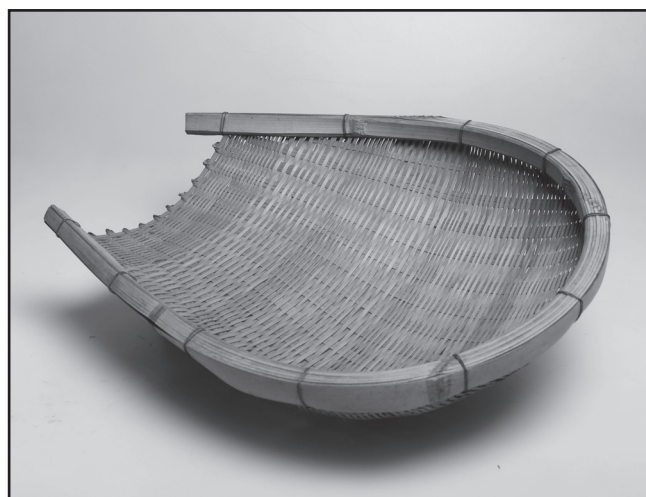




① 竈（かまど）



② 枡（ます／右・中央）、とかき（左）。



③ 米洗いザル



④ 羽釜（はがま）



⑤ お櫃（おひつ）



⑥ お櫃入れ（おひつ入れ）



⑦ お櫃台（おひつだい）

道具の使い方を書いてね。写真の下に道具の名前が書いてあるよ。



答え

- ① に た 煮炊きをするための設備。せつび かま 釜や なべ 鍋をかけ、下で火をたく。
- ② ます 枡は米や酒等をはかる道具。枡で米をすくったあと、盛り上がった部分をとかきですりきる。
- ③ 米を洗うための道具
- ④ かまど 竈にかけてお米を炊く道具
- ⑤ た 炊いたご飯を入れる道具
- ⑥ ひつ お櫃を中に入れ、炊いたご飯を ほ おん 保温する道具
- ⑦ た 炊いたご飯を腐らないように くさ 通気性をよくするため、台にのせる。



## 1. <sup>いち</sup>ボロ市が始まったのはいつ？

- ① 始まりは 400 年以上前！
  - ・天正 6 年（1578）頃に始まった。
  - ・1 ヶ月に 6 回、1 と 6 のつく日（1・6・11・16・21・26 日）に開かれていた。
- ② 江戸時代（300 年頃前～）の<sup>えど</sup>ボロ市は？
  - ・年に 1 度、12 月 15 日だけ開かれ、「<sup>とし いち</sup>歳の市」といわれた。
  - ※何が売られていた？
    - 正月用品、日用品、農具などが売られていた。（展示室のジオラマで確認しよう！）
- ③ 明治時代（200 年頃前～）の<sup>めいじ</sup>ボロ市は？
  - ・年に 4 回、12 月 15 日・16 日、1 月 15 日・16 日に開かれた。
  - ・店の数は、800 ～ 2000 店。
  - ・「ボロ市」と呼ばれるようになる。



ボロ市の「ボロ」って何？

使い古した衣服、古着、ぼろきれのことを「ボロ」というんだよ。明治 20 年代になると、古着やボロをたくさん売っていたから「ボロ市」と呼ばれるようになったんだね。

## 2. 現在のボロ市

- ・12 月と 1 月の 15 日・16 日、計 4 日開催。
- ・約 700 店が<sup>しゅってん</sup>出店し、日用品や正月用品、<sup>こっとう</sup>骨董、<sup>うえ き</sup>食べ物、<sup>うえ き</sup>植木などが売られている。

## 3. 何を売っているのかな？（昭和 20 ～ 30 年代）



① <sup>ふるぎ</sup>古着



② <sup>うす きね</sup>臼と杵



③ <sup>ひもの</sup>干物



④ <sup>かご</sup>籠等

## 4. 江戸時代のボロ市の様子を見てみよう！

展示室にあるジオラマで、江戸時代のボロ市で何が売られていたのか見てみよう。



今ではあまり目にしないものも売られているよ。分かったら、ここに書いてね。



そうり  
草履

みの  
蓑

かさ  
笠

ほうちよう  
包丁

かま  
鎌

くわ  
鋤

かぼちゃ・だいこん  
大根・さつまいも等

の野菜

こんぶ  
魚・昆布等

み  
箕

ざる

なべ なべふた  
鍋・鍋蓋

わん  
椀

ひしゃく  
柄杓

めかご あら あ たけかこ  
目籠（目を粗く編んだ竹籠で、中

に物を入れる道具）

あけ  
桶

ユズリハ（榎 / 植物。えんぎ いわ  
縁起を祝って新年の飾り

り物に使う。）

松

干大根（ほしだいこん）・漬物（つけもの）等

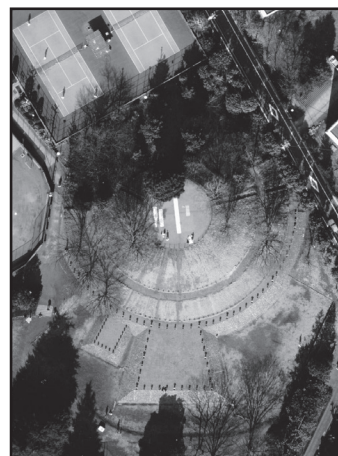




①～⑨の展示物を探してみよう！  
見つけたら□の中に○を書いてね。

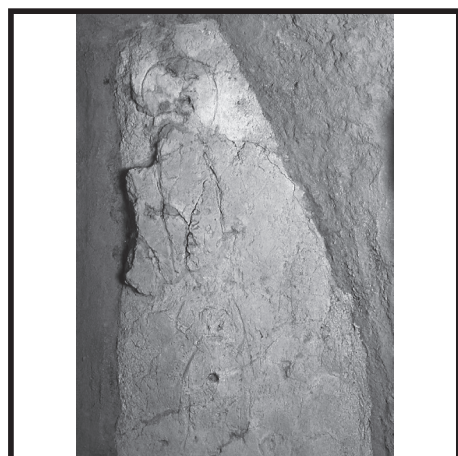


① 鶏の形をした埴輪



野毛大塚古墳

昔の人が土を盛ってつくった  
大きなお墓のことを古墳とい  
います。左の埴輪※は現在の玉川野  
毛町公園内にある野毛大塚古墳  
(写真右) から出てきたものです。  
※古墳の上や周りに並べた素焼  
きの土製品。



② 横穴墓に描かれた線刻画

答え

親と子ども

山や丘の斜面に横へ穴をほっ  
てつくったお墓を横穴墓とい  
います。  
左の絵は横穴墓の壁に描かれ  
たものです。何が描かれてい  
るのでしょうか？ 答えは右の欄に  
書いてね。

世田谷の  
原始・古代

世田谷で最も古い遺跡※は、今から3万5千年以上前の後期旧石器時代  
のものです。現在、世田谷区では300ヶ所以上の遺跡が確認されています。  
特に多摩川沿いの崖の上にはたくさんの遺跡があります。

※昔の人々の生活の跡が分かる場所

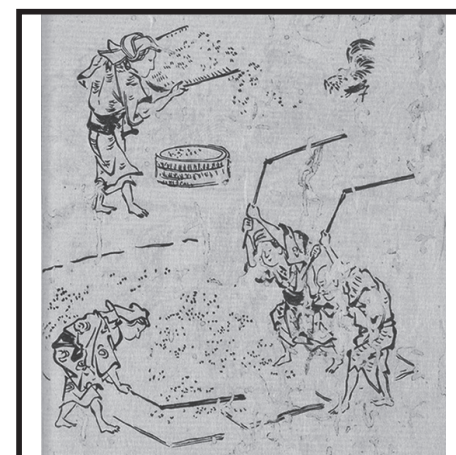


③ 奥沢神社の大蛇



現在のお練りの様子

この蛇は藁で作られています。  
奥沢神社では、毎年9月にこの  
蛇をかついで町内会を回るお練  
り行事が行われています。江戸  
時代、藁で作った大蛇が村を回っ  
たところ、奥沢で流行した病気が  
治まったという言い伝えから。



④ 麦の棒打ち、選別

この絵は江戸時代に描かれた  
ものです。麦の棒打ち※①と選別※  
②をしているところです。  
昔の主食は白米ではなく麦で  
した。世田谷の村では畑で野菜  
と麦をつくっていました。  
※①棒でたたいて麦を穂から取  
り離す。※②箕でふるって実と  
ゴミを分ける

どこに  
あるかな？



⑤ 大口真神のお札



安藤家（次大夫堀公園民家園）に貼られたお札

これは盗難除け・魔除けの神と  
される御嶽山（東京都）の大口  
真神のお札で、ニホンオオカミ  
が描かれています。世田谷の農  
家はお札を家の出入り口や土蔵、  
畑の脇などに貼って泥棒から  
守っていました。

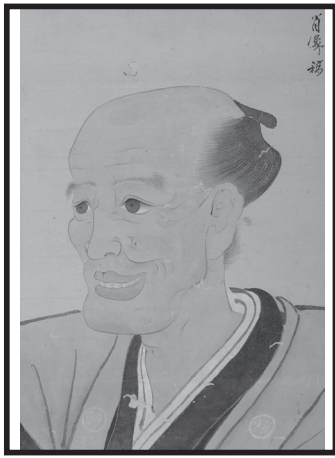


世田谷の  
きんせい  
近世

- ① 江戸時代の世田谷は、たくさんの人が暮らす江戸の近くにあったため、地域の人々は畑でつくった野菜を江戸で売り、お金にかえることができました。世田谷には米づくりにむかない土地もあったため、村では米よりも麦・野菜を多くつくりました。
- ② 江戸に野菜を運んだ農民たちは、その帰りに江戸の人々から糞尿をくんで持ち帰り、畑の肥料としました。



☐ ⑥



☐ ⑦

江戸時代、世田谷には42の村があり、その内の20ヶ村が彦根藩井伊家の領地(土地)でした。江戸時代の終わりに井伊直弼がたいろう(江戸幕府の重要な役職)をつとめたことでも有名です。では、⑥と⑦、どちらの肖像画(似顔絵)が井伊直弼でしょう？下に番号を書いてね。

答え ⑥



☐ ⑧ 寺子屋で使った机



江戸時代の寺子屋の様子  
(わたなべかざん 渡辺華山画『一掃百態』)

寺子屋は江戸時代に庶民の子どもの教育施設で、読み・書き・そろばんを教えました。この机は寺子屋に通う子どもが使いました。正座など、座って利用します。



☐ ⑨ 大正12年(1923)の小学校の教科書



☐ ⑩ 近代の三軒茶屋の模型

世田谷の  
きんげんだい  
近現代

- ① 大正12年(1923)の関東大震災で被害を受けた人が世田谷へ移り住みました。その後、世田谷に電車が開通し、さらに多くの人々が住むようになりました。
- ② 人が増えたことで畑は住宅にかわり、農家の数は減っていきました。
- ③ 昭和7年(1932)、世田谷区が成立しました。現在の区域になったのは昭和11年(1936)です。

尋常小学校は昔の小学校で、明治19年(1886)から昭和16年(1941)までありました。この教科書は尋常小学校修身の授業で使われたものです。修身は現在の道徳の授業に当たります。



当時の玉電は1区3銭で乗車できました。その頃ではかなり高額で、そば1杯と同じ値段でした。

答え

砂利

玉電(玉川電車)は明治40年(1907)、三軒茶屋から二子玉川間で開通しました。これはその当時の三軒茶屋をあらわした模型です。電車が何かを運んでいますが、何を運んでいるのかな？ヒントは多摩川にあるもので、建物をたてる時に使うものだよ。